

皮膚外用薬を 使いこなす！



手を伸ばし、皮膚外用薬を使いこなそう

一般医が皮膚疾患を診る動機はさまざまあるでしょうが、治療選択肢はおおむね内科的な薬物療法(内服薬、注射薬)と外科的な手術療法に分けられると思います。それぞれ広く用いられている手段ですので、その延長線上で実行可能な治療法でしょう。

これらに加え、皮膚科特有とも思われる治療法として、紫外線照射装置やレーザーといった機器を用いた治療法、外用薬を用いた薬物療法(外用療法)があります。高額な機械にはなかなか手を出しにくくとも、外用薬には容易に手が届きます。皮膚疾患への対応力向上のためには、まずこちらの習得を目指すのが理に適っています。

本特集は、一般医の先生方を対象とし、皮膚外用療法のノウハウをお伝えすることを目的として企画したものです。外用薬の種類別に解説する方法もありますが、一般医にとっては病気から入ったほうが読みやすいのではないかと考えました。そこで、疾患名を掲げ適応となる外用薬を対応させて解説する形式を採用することとし、17のテーマを選びました。

執筆陣は、外用薬を自家薬籠中のものとして日々使いこなしている皮膚科医です。新しく世に出た外用薬の情報もふんだんに盛り込まれていますので、知識のアップデートにも有用な原稿が揃ったものと自負しています。また、幕間において、外用療法のちょっとしたコツと落とし穴に関するコラムを7つ挿入しておきました。箸休め、あるいはcoffee break的な読み物としてお楽しみいただければ幸いです。

最後に、寄稿してくださった先生方に衷心より感謝申し上げます。診療や育児・介護に忙殺され、わずかに残った自分の時間を割いてご執筆いただいた先生もいらっしゃいます。かように身を削って作りあげた本特集が、プライマリ・ケアの場における外用療法の実践に役立つならば、筆者・編者の苦労も報われるというものです。

〔編集幹事〕東京医科大学八王子医療センター皮膚科

梅林芳弘